

第2節 使用済み製品の再使用（リユース）の推進

リデュースに向けた取組を実施した上で、購入等した「もの」は、できるだけ廃棄物として排出しないように長く使い続けることが大切です。

リユースとは、一度使用された「もの」を再び使用することであり、形状をそのまま使用するため、リサイクルに比べ、一般的に新たなエネルギー消費や資源の投入が少ないとされています。

1 現状と課題

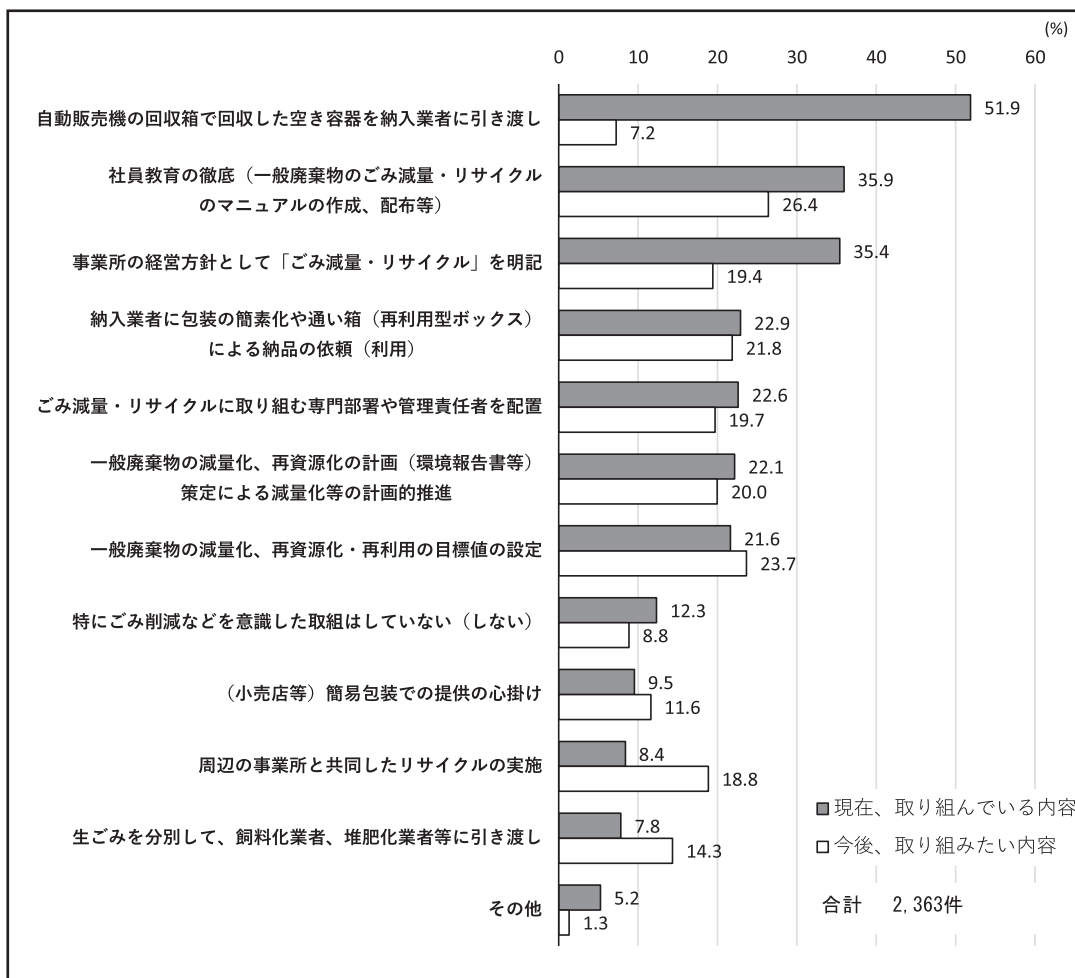
(1) 現状

県政モニターアンケート調査²¹によると、「マイバッグ、マイボトルを使う」ことを「常に実践している」と「概ね実践している」人の合計は78.6%、同じく「壊れたもの、古いものもできるだけ修理して使う」人は59.1%、「フリーマーケット、リサイクルショップを利用する」人は25.0%、「フリマアプリを利用する」人は9.2%となっています。

また、長野県産業廃棄物実態調査²²によると、事業者のリユースの取組として、「納入業者に包装の簡素化や通い箱（再利用型ボックス）による納品の依頼（利用）」に取り組んでいる割合が22.9%、今後取り組みたい割合が21.8%となっており、「一般廃棄物の減量化、再資源化・再利用の目標値の設定」に取り組んでいる割合が21.6%、今後取り組みたい割合が23.7%となっています。

²¹ 令和元年度第4回県政モニターアンケート調査結果 回答者数948人

²² 平成30年度長野県産業廃棄物実態調査「事業系一般廃棄物に関する意識調査結果」 回答件数2,363件



（産業廃棄物実態調査）

図 4-2-1 事業系一般廃棄物の減量化、再資源化・再利用を推進するための取組内容

(2) 課題

個人の取組においては、マイバッグ、マイボトルを使う習慣が根付いてきていますが、フリーマーケットやリサイクルショップ等の利用率は低いため、よりリユースが身近なものとなるように普及啓発をしていく必要があります。

また、事業者の取組においては、今後取り組みたい意向を持っている事業者も一定数いることから、先進事例の紹介等を通じ、導入への後押しをしていく必要があります。

2 施策の展開

現状と課題を踏まえ、県では以下の取組を進めます。

(1) 信州プラスチックスマート運動の推進

- ・マイバッグ、マイボトルの使用が更に増えるように、普及啓発に努めます。
- ・ワンウェイ製品の使用を見直し、長く使えるものを推奨します。
- ・県庁においては、会議でのマイボトルの持参に取り組みます。

(2) 市町村等のリユースの取組を広報

- ・県内市町村で開催されているリユースイベントやフリーマーケットをより多くの方に知っていただき利用者を増やしていくために、市町村等と連携して広報します。

3 各主体の取組

各主体においても、積極的にリユースを推進することが望まれます。

具体的には、以下のような取組が想定されます。

(例) 市町村の取組

- ・リユースイベントやフリーマーケット、不用品の交換制度など、住民に対しリユースを促す機会を積極的に提供する。
- ・地域のイベントに貸出し用のリユース食器等を提供する。
- ・粗大ごみからリユース品を選別し、事業者に販売したり、希望する住民に販売、譲渡する。
- ・リユースの普及・啓発、住民の意識の醸成を行う。

(例) 事業者の取組

- ・ワンウェイ包装・製品等の見直し（通い箱、リユース箸の導入等）を行う。
- ・使用済み封筒や使用済み裏紙を再利用する。
- ・組織内での不用品譲渡を励行し再利用する。
- ・社員にマイカップ、マイ箸、マイボトルの持参を呼び掛ける。
- ・自社製品を回収し、再利用させる循環システムを構築する。
- ・消費者がリユースしやすい製品開発、システムを研究・構築する。
- ・ライフサイクルアセスメント²³の手法を用い、環境負荷が少ない製品（長く使えるもの等）の開発を行う。

(例) 県民の取組

- ・リユースイベントやフリーマーケット、インターネット等を活用し、不用になったものを再利用する・させる。
- ・家庭等におけるリユースを行う。
 - ☞ テーブルの汚れ拭きは、ティッシュではなく、ふきんを洗って再利用する。
 - ☞ 裏面が印刷されていないチラシ等をメモ用紙として利用する。
 - ☞ シャンプー、リンス等の日用品やボールペンの芯等の文具におけるリフィル（詰め替え、補充用の物品）製品を利用する。
 - ☞ ふとんの打ち直しにより繰り返し利用する。

²³ 製品やサービスのライフサイクルを通じた環境への影響を評価する手法（出典：環境省ホームページ）
(<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/lca/index.html>)

- 👉 まだ使えるものは修理（リペア）等して長く使う。
- 👉 マイカップ、マイ箸、マイボトル、マイ歯ブラシを持ち歩く。

4 取組事例

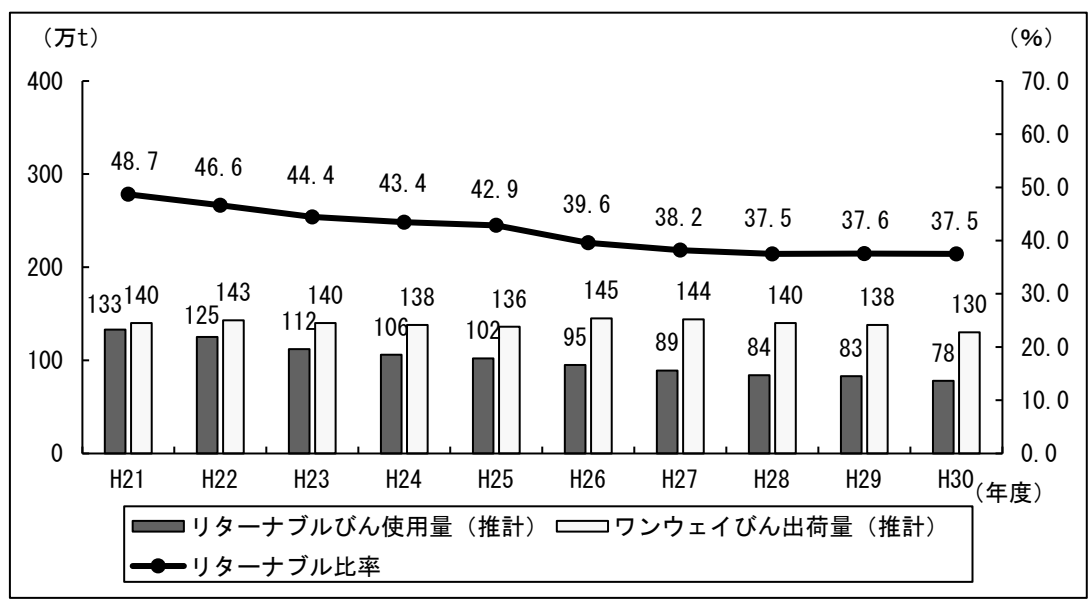
本県のリユースに関する特徴的な事例を紹介します。

(1) リターナブル容器

一般的に、ビールびん、一升びん、牛乳びんなどのリターナブル容器を繰り返し使うことは、環境への負荷を少なくします。中でも、長野県における学校給食用牛乳びんの使用率は93.8%と、全国平均の18.9%を大きく上回っています²⁴。

また、全国のビールびんの回収率は95%²⁵以上となっており、びん・箱ともに回収後は洗浄されて何回も再使用されており、「リユースの優等生」と言われています。

廃棄物の減量化及び資源の有効利用の観点から、このリターナブルシステムを維持していくことが重要です。

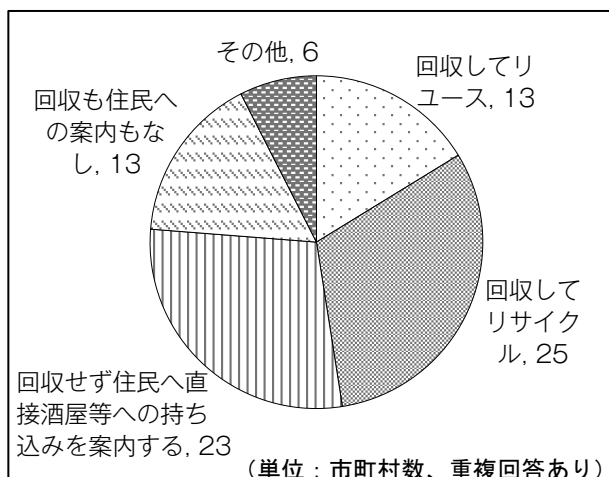


※リターナブルびん使用量＝リターナブル新びん投入量＋リターナブル古びん使用量
 ※ワンウェイびん出荷量＝ガラスびん出荷量（ワンウェイ、リターナブルの新びん）－輸出货量＋輸入量
 （出典：ガラスびん3R促進協議会）

図4-2-2 リターナブルびんの利用率（全国）の推移

²⁴ 農林水産省 平成30年度学校給食用牛乳供給事業概況
²⁵ ビール酒造組合 HP よくある質問 リターナブルビールびん Q&A

リターナブルびんの回収方法は、販売店に返却すると保証金が戻ってくる「デポジット（容器保証金）制度」の導入のほか、市町村での回収、選別があります。



(令和2年度市町村状況調査（資源循環推進課）)

図4-2-3 市町村のリターナブルびん回収状況

(2) リユース食器

リユース食器は、使い捨て容器に替わる洗って再利用（リユース）する食器やカップ、お箸類などの総称で、使い捨てのライフスタイルを見直し、ものを大切に使うリユースの代表的な取組として着目されています。

食に関するイベント、スポーツや音楽イベント、学園祭、地域のお祭りなど、食事や飲物を提供する多くのイベントにおいては、以前より準備、片付け等の利便性から、使い捨ての皿、コップ、箸、スプーン等の食器が利用されていましたが、近年、これらの使い捨ての食器の使用を見直し、使い捨てることなく何度も使用できるリユース食器の活用が進んでいます。

✿コラム | リユース＝廃棄物の発生量の減少につながるの？

使用済製品のリユースを推進することで、一般にはその製品の長期使用・長寿命化につながります。リユースしても、いつかは廃棄物として排出されることにはなりますが、製品あたりの使用年数が長くなることで廃棄物の発生量は減少することになります。

また、使用済製品のリユースを推進することで、温室効果ガス排出量の削減にもつながります。

✿コラム | 省エネ性能が悪い電気製品を長く使うことは温室効果ガスの削減につながるのでは？

使用時にエネルギーを消費する電気製品等については、省エネ性能の向上によって温室効果ガス排出量の削減につながらない場合もありますが、製品のライフサイクルで考えると、使用年数が長くなることによって、新たに製品を製造するために投入される資源が抑えられ、製造から廃棄に至る過程において排出される温室効果ガスの削減につながります。